

# K小 S先生のあたりまえ

○以下は、小学校2学年での実践です。

## その① 「自分の表現のよいところを見つける」

自分の表現の中からお気に入りの部分を見つけ、それを材料として活用する活動を取り入れました。

クレヨンと型紙を用いて「ぼかし模様」をつくり、描画の技法を楽しむ学習を行いました。事後に、この試しの表現を使って「あじさいの花」の絵に表す活動を設けました。児童は、色やぼかしの効果に注目しながら、自分が試した表現の中から使いたい部分を選んで制作に取り組みました。



壁面飾りを意図した「赤とんぼ」の制作では、上記の「ぼかし」や色鉛筆を用いた複数枚の塗り絵（別時間での取組）の表現を、とんぼの目玉やはねの部品として使いました。部品の形に合わせ、どの部分の模様を使うのかをじっくりと検討しました。

## その② 「他教科の学習を表現に生かす」

題材によっては、他教科の学習と関連させながら表現活動への動機付けを行いました。

「魚のかざり」作りは、主材料の紙皿の形を変化させたり、装飾を施したりすることを通して知識と技能を育む学習です。国語科の学習「スイミー」と関連付けて、「スイミー」の仲間の魚たちを作ろうと呼びかけました。物語の世界観を共有しながら、思い思いの彩色や飾り付けで個性豊かな赤い魚の仲間たちを仕上げています



生活科の学習で野菜を育てた体験と絡め、野菜が大きく成長することで繰り広げられる楽しいストーリーを想像して絵に表しました。色や形、さわった感じなど、観察を通して分かったことから発想を膨らませ、「大きく育った野菜でどんなことができるか」という視点を与えてイメージをもてるようにしました。児童の一人は、キュウリのカーブした形からすべり台で遊ぶ様子を思い浮かべ、楽しんでいる自分を大きく描きました。

